

広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム 派遣留学報告書

	記入日	平成 29 年 6 月 13 日		
所属学部・研究科	教育 学部/研究科	3 年次 (留学開始時点)		
留学先大学	ニューイングランド大学 (国名: オーストラリア)			
所属学部・学科等名	Non award			
在籍身分	交換留学生 (学士)			
留学期間	平成 29 年 2 月 4 日 ~ 平成 29 年 6 月 2 日			
1. 渡航について				
ビザについて	ビザの種類: 学生ビザ			
	ビザ申請先: オーストラリア大使館			
	取得方法, 提出書類: オーストラリア大使館ホームページからオンライン申請をします。全て英語ですが、検索をすると日本語で解説してくれているサイトがたくさんあるので、参考にするといいです。GTE という短期入国者であることを証明する文章を書かないといけません。			
	手続きに要した日数: 15 日			
その他必要な事前手続き	海外旅行保険			
出国年月日	平成 29 年 2 月 4 日			
経路	広島→羽田→シドニー→アーミデール			
現地での出迎え	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (本来は international office の職員が来るそうですが、日曜日だったため、アルバイトの学生が出迎えに来てくれました。)			
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	寮のオリエンテーションウィークが1週間あり、その中で留学生向けのオリエンテーションが1日ありました。新入生向けのオリエンテーションウィークがその後1週間あります。留学生のオリエンテーションで履修登録をしました。			
帰国年月日	平成 29 年 6 月 3 日			
経路	アーミデール→シドニー→羽田→広島			
2. 留学経費について				
所要経費	総額	約 1,000,000	円	
	内訳	渡航費	140,000	円 (8割は奨学金により返付)
		保険料	45,000	円
		教科書代(学費)	30,000	円
		宿舍費	450,000	円
		食費	100,000	円
		その他 (日用品、服費) (交際、旅費)	50,000 190,000	円 円 円
3. 授業について				
2017 年 1 学期	2 月 20 日 ~ 6 月 2 日			

年 学期	月 日 ~ 月 日
年 学期	月 日 ~ 月 日
年 学期	月 日 ~ 月 日
授業の概要について (カリキュラム, プログラム等)	どこの学部にも所属しない交換留学生の特別な扱いだったので、好きな学部の好きな授業を履修できました。一学期に3つか4つ授業を履修するのが普通で、私は3つ(1年生向けの授業×1、3年生向けの授業×2)を履修しました。そこまで忙しくなく、各授業が週に3時間程度(講義とチュートリアルなど曜日が分かっているものもあります)で構成されていました。
単位互換希望の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 ※有の場合、所属学部支援室へ提出の単位認定申請書類のコピーを添付すること
学術面に関する後輩へのアドバイス	Academic writing(ENCO100)の授業がとても役に立ちます。どの授業を履修するにしてもレポート課題が必ずあるので、書き方を学べたのはとても役に立ちました。 オンライン教育で有名なので、どの授業も基本講義は録画されています。復習の際に役立てることができました。予習復習をかなり求められます。また、チュートリアルなどではディスカッションをしたり、実際に問題を解いたり実践的な内容が多いです。
4. 生活等について	
(1) 留学先の住居について	
住居の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他 ()
住居の広さ	約 6 畳 同居人の有無 <input type="checkbox"/> 有 (人) <input checked="" type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 電気 <input checked="" type="checkbox"/> ガス <input checked="" type="checkbox"/> 水道 <input checked="" type="checkbox"/> 給湯 <input checked="" type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input checked="" type="checkbox"/> 水洗便所 <input checked="" type="checkbox"/> 暖房 <input type="checkbox"/> 冷房 <input checked="" type="checkbox"/> 台所 <input checked="" type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット <input checked="" type="checkbox"/> その他 (BBQエリア、テレビルーム、パーティールーム)
住居費	1ヶ月当たり \$1200 (現地通貨) 約 100,000 円
住居を決定した方法	<input checked="" type="checkbox"/> 留学先大学の紹介 <input type="checkbox"/> 友人・知人の紹介 <input type="checkbox"/> 不動産業者 <input type="checkbox"/> その他 ()
留学先での住居全般に関するアドバイス	大学の寮は8つあり、私が住んでいた寮は大学の隣にある唯一の寮です。その他7つの寮は少し離れたところにあります。留学生が多い寮と全くいない寮など偏りがあり、部屋のタイプや食事なども寮によって異なります。留学生が多い寮は Wright Village ですが、食事は自分で作らないといけません。Wright Village&College 以外の寮だと日~木の夕食は出ます。勉強に集中したい、食事は自分で作りたい、色々な留学生と話したい、英語を上達させたいなど、目的に応じて選ぶと良いです。
(2) 医療について	
1日以上入院を要する 病気・怪我等を	<input type="checkbox"/> した <input checked="" type="checkbox"/> しなかった
入院した場合	により 日入院
留学に当たり保険を	<input checked="" type="checkbox"/> 掛けた <input type="checkbox"/> 掛けなかった
掛けた場合	<input checked="" type="checkbox"/> 日本 <input checked="" type="checkbox"/> 留学先国 <input type="checkbox"/> その他 ()
掛け金は	年間 円 補償額 死亡 円, 入院1日 円 その他 ()
留学前後での予防接種の必要の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無

有の場合、その種類、回数、費用、受けた医療機関名		
日常的な健康について不安が	<input type="checkbox"/> あった <input checked="" type="checkbox"/> なかった あった場合その理由：	
留学先国の医療事情（日本と比較して）	病院は予約をしないと診てくれません。急に体調が悪くなって病院に行っても診てくれないと聞きました。	
留学先での健康管理、衛生面について特に注意すべきこと	市販薬などはオーストラリア国内に持ち込みできるので、持っていった方が良いです。冬はとても寒くなるので風邪などひきやすくなると思います。私自身、軽い風邪はよくひきましたが、日本からの市販薬で乗り切りました。	
(3) 危険を感じた地域、状況		
アボリジニの子どもたちが大学の近くの道で女の子をナイフで刺した、という話を聞きました。一人では出歩かないようにと言われ、そうしていたので私自身なにか起こることはありませんでしたが、大学内のクラブに行った際、酔った男の人に身体を触られたりしたことはありました。		
(4) その他生活等に関して参考となる事項		
夏はあまり暑くならないと聞いていましたが、今年は異常気象で夏がとても暑かった上に冷房はないので、過ごしにくいことはあると思います。冬は暖房がいたるところにあるので快適です。 寮には枕も布団もなく自分で用意しなければならなかったため、最初の数日は飛行機用のネックピローとバスタオルで寝ていました。夏でよかったです、着いてすぐ買い物に行くことをおすすめします。		
5. 帰国後の進路について		
卒業予定年月	平成 30 年 3 月 (当初の卒業予定年月 平成 30 年 3 月)	
卒業が遅れる見込みの場合、その理由	<input type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他 (具体的に)	
現在の状況および今後の予定・進路等	教員採用試験	
就職活動や留学前の単位取得、教育実習等についての工夫	教育実習を予定通り行い、さらに4年卒業のためにオセアニアへの半年の留学にしました。卒論関係の授業をゼミの先生を話し合い、留学前にある程度単位を取ってしまえば、4年卒業は可能です。しかし、オーストラリアで教採の出願、勉強のかなり遅れたスタートは少し大変かもしれません。就活の場合、4年卒業はできるものの4年次の就活は厳しいと思います。	
6. 留学準備、留学中に役立った書籍、ウェブサイト等		
書籍、サイト名	詳細 (出版社、URL 等)	コメント
7. 自由記述 (後輩へのアドバイス等)		
とてもいい環境で勉強できると思います。日本語学科の先生が日本人留学生にとっても優しいです。日本語教育に興味のある方はぜひこの大学をおすすめします。 寮の生活も楽しく、静かな町なので勉強に集中することができました。		

学習の概要に関するレポート

ニューイングランド大学では交換留学生という身で、どこかの学部にも所属していたわけではなかったため、自分の興味のある学部の授業から好きなように授業を履修することができました。授業は一学期に3つ又は4つ履修するのが普通で、私は3つ履修しました。1年生向けの授業を1つと3年生向けの授業を2つです。基本2年生や3年生の授業は1年生のものを取っていないと履修できないものもあったので、留学担当の職員さんに担当教授の方に連絡を取ってもらって、自分でも教授にメールをして履修できることになりました。

授業の形式はそれぞれ異なりましたが、基本週に3時間程度キャンパスにて講義やチュートリアルがありました。UNEでは講義だけではなく、チュートリアルやセミナーなど実践的な活動の授業も含まれます。講義とチュートリアルが一体となっている授業や、講義とチュートリアルの曜日時間帯がバラバラなものもありました。

普段の授業の予習復習がとても大切になってきます。キャンパスにて出席する授業やチュートリアルの他に、各自教科書を読んだり、問題を解いてきたり、広島大学で言う bb9 のようなオンライン学習システムに毎週自分の意見を投稿しないとイケないものもありました。授業を選択する際は、unit を調べて評価をどのように行うか、またその時期はいつごろなのかを把握することが大事です。毎週の大量のリーディングの他、私が履修した授業の評価は全てエッセイであったため、常にエッセイに追われていました。Essay writing には様々なものが要求されます。テーマを決め、教科書や関連論文を読み、それを元に自分の意見を構築し、正しい英語で書かなければいけません。何よりも最後の正しい英語で書くことが一番大変でした。3年生向けの授業は、エッセイに書くことに慣れている生徒を想定しているため、その分評価も厳しかったです。返ってきたエッセイの評価を見ると、文法ミスを指摘されていたり、ここは何が言いたいのかわからない、とコメントされていたりするところもありました。私は日本語学科のネイティブの先生が添削してくれるということで毎回のように頼っていました。ネイティブの友達に見てもらうのも一つの手だと思います。また、私が暮らしていた寮では大学での学習を助けてくれる先輩が新入生(留学生も含む)10人くらいに一人いたので、そういった人たちにも助けてもらいました。今年度からオンラインの添削システムも導入され、とても役に立ちましたが、外部の方が添削しているため、自分の伝えたいことを汲み取ってくれないということもありました。

大学が静かなところにあり、学習環境がとてもよかったため、勉強にはとても集中できました。授業の選択も、広島大学での専攻に関係ある物ばかり選んでいたため、授業に対するモチベーションはとても高かったと思います。私は基本大学にある日本人留学生が使用できる教室に一日中滞在し、エッセイを書いたり、予習のためのリーディングをしたりしていました。大学生になって一番勉強した4ヶ月だったと思います。



生活の概要に関するレポート

ニューイングランド大学のあるアーミデールは大学の町と言われており、とても静かな田舎町です。少し西条に雰囲気が似ているように感じました。町に買い物に出るにはバスで15分(片道\$3)、または徒歩1時間でした。過ごしやすい気候のときは友達と行きは徒歩、帰りはバスを利用して買い物に行っていましたが、基本車を持っている友達に町まで乗せていってもらい、買い物をしていました。町ではある程度のを調達することができます。

私は留学期間中、**Mary White College** という大学の寮で生活していました。**Mary White** は大学にある寮のうち、唯一大学内にあります。そのためか、**Academic College** と言われており、勉強に対するサポートがとても手厚く、真面目な生徒も多かったように思います。それでも日本人の私にとってはパーティー(特にオリエンテーションウィーク)の多さや賑やかさに戸惑っていたのですが、友人たちは口をそろえて「他の寮の方がうるさい賑やか」と言っていたので、静かな方だったのだと思います。寮では日曜から木曜までの夕食が出ます。バイキング形式となっており、野菜もたくさん食べることができたので、留学期間中太ることはありませんでした。金曜と土曜の夕食と、毎日の朝食と昼食は自分で用意しなければいけません。朝食は基本シリアルで済ませ、昼食はサラダとサンドイッチを作って持っていき、とても高いのですが大学のカフェで買ったりしていました。金曜と土曜の夕食は寮の共用キッチンで友達と作ったり、課題で余裕がないときはインスタントや冷凍食品に頼ったりしていました。寮での暮らしはとても快適でした。自分の部屋はそれなりの広さで机も収納もきちんとあり、夕食は **Dining hall** でとるためネイティブと話すいい機会になりました。各寮に創設者がいて、寮の旗やカラーがあり、まるでハリーポッターのようでした。寮ではフォーマルディナーといってドレスとアカデミックガウンを着て少し豪華な食事をとることが半年に2回くらいの頻度で行われます。女子はシンプルなドレスやパンプスを、男子はシャツとネクタイを持っていくことをおすすめします(もちろん現地でも買えますが、到着後すぐにあつたため、少しバタバタします。)

上述した通り、勉強は日本語教室で基本していました。学生は図書館以外の大学の建物に土日は入ることができないのですが、日本語学科の先生が入れるようにしてくれたため、課題で忙しいときは土日も大学で勉強することがほとんどでした。

大学では日本文化クラブや日本語の授業に顔を出していたので、仲のいい友人はほとんど日本語を勉強している生徒でした。日本文化クラブでは2週間に1回日本の映画を見ていました。それ以外でもよく日本語教室に顔を出したり、土日に一緒に遊んだりする機会が多かったので英語を話す機会がたくさんあり、また、日本語を教えることもよくありました。

静かな町で勉強に集中でき、現地の人々も優しく、とてもいい場所です。旅行に行きにくいのが少し難点ですが、標高が高いためオーストラリアには珍しく四季があり、紅葉も見ることができる素敵な場所でした。





University of New England